

金色こんじきのちひさき鳥のかたちして

銀杏いてふちるなり夕日の岡に

歌意

晩秋の夕暮れ、辺り一面を茜色に染めて、岡の向こうに夕日  
が沈もうとしています。いちよの葉がまるで金色に輝く小  
な鳥のような姿で、ひらりひらりと翻りながら落ちていきます。

掲出歌集 『恋衣』明治38（1905）年1月  
初出 「明星」明治38年1月号（晶子27歳）

